

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 宇佐産業科学 高等学校	
学校教育目標	豊かな人間性を育み、社会で必要とされる規範意識とマナーを習得させるとともに、一般的な教養を高め、専門的な知識・技能を身に付けた、知・徳・体のバランスの取れた人として、卒業後、地元の発展を支える人材を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 4つの専門学科を軸に、地域との連携・貢献・成長を掲げた明確な経営ビジョンを確立している。 地域発展に貢献し、地元と共に成長する力を育てるというスクールミッションが明確で、実践されている。 重点目標は、豊かな人間性と主体的な学びの育成を柱に、学校の課題解決に特化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の専門性を個別に活用するにとどまらず、学科横断的な連携を推進し、地域課題の解決に資する教育活動の展開を図る。 地域貢献活動を生徒の主体的な学びと結び付け、生徒自らが課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む学習活動の充実を図る。
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 一部に困難な状況が見られる中、学校改革・改善に向けた意欲的な達成指標が設定されている。 校長のリーダーシップのもと、経験豊富な主任層が一致団結して取り組む体制が整っている。 生徒アンケートの分析結果とその活用を組み込んだPDCAサイクルが確立されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌及び各教科・学科において、取組指標や達成指標等に基づく評価・検証を計画的に実施し、PDCAサイクルを実践しながら授業改善を推進する。 様々な課題の解決に向けた組織的な取組を実践するため、継続的な情報共有を図るとともに、運営体制の改善に努める。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達・公開を適切に行っているか。（ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等） 生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 ホームページが頻繁に更新され、教育活動を伝える多くの写真や文章など、わかりやすくかつ充実している。 「うささんマーケット」には、大きな教育的意義がある。生徒の自己有用感、自尊感情の高まりが確認できる。 保護者向けメールや広報の工夫により、生徒の満足度が保護者にも浸透し、アンケートで高い評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「開かれた教育課程」の理念を踏まえ、生徒の活動についてHPやSNS等を活用した積極的な情報発信を行い、育成を目指す生徒像の家庭及び地域への浸透を図る。 生徒の「自己有用感」及び「自尊感情」の醸成を図るため、地域連携活動において主体的かつ課題意識を持って取り組む態度の育成に努める。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 生徒の授業に対する満足度は総じて高い。 ICT活用や能動的な学びへの肯定回答が約9割に達し、授業改善が着実に進んでいる。 4学科とも、卒業後の職業に直接結びつく実践的な授業・実習が行われている点は高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「うささん授業改善」の取組を推進し、授業の活性化を図るとともに、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。 効果的なICTの活用による分かりやすい授業の在り方を検証・改善するとともに、授業研究会や授業アンケートを通して教員の授業力向上を図る。 各学科の専門的な学びを卒業後の職業生活に結び付けながら、実践的・体験的な授業及び実習の充実にも努める。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 毎学期放課後に個人面談を行い、生徒個々の実態把握に努めている。 いじめ・不登校・合理的配慮に対し、組織的な情報共有や検討委員会の設置により適切に対応している。 「どんなことでも先生に相談しやすい」など、信頼関係のもと、日常的な生徒指導が機能している。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや生徒の困りの未然防止及び早期発見に向けて、個人面談を計画的に実施するとともに、教職員に気軽に相談できる環境づくりの充実に努める。 いじめ及び不登校の未然防止を重視し、保健・教育相談部を中心に、SCやSSW、関係機関と連携を図りながら、組織的かつ適切な対応を推進し、早期解決につなげる。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 通学時の安全指導(特に自転車・原付バイク)について点検やヘルメット着用の徹底など適切に行われている。 事故や災害等に対応する各種マニュアルが整備されている。 新たな問題としての「盗撮」の未然防止・発見の取組も始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び教職員の安全確保に向け、項目別研修や災害対応訓練を計画的に実施し、全教職員の危機管理意識の向上を図る。 全教職員による学校施設等の定期的な安全点検や、自転車・バイク通学に係る交通安全指導を通して、生徒及び教職員の安全対応能力の向上に努める。 学校事故や非常災害等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制の検証・改善を図り、生徒の安全確保に資する教育環境の整備に努める。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務を減らす取組を、数値目標を設定し実施している。 自身の勤務実態を、学校全体との比較で経時的に把握できるフィードバックを個々の教員に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の超過勤務時間を毎月グラフ化し、勤務実態の可視化を図るとともに、改善に向けた継続的な働きかけを行う。 部活動における顧問の複数配置を推進し、指導体制の充実と顧問の負担軽減を図る。 ICT機器やGoogleフォーム等を活用し、会議資料の配布や各種集計業務の効率化を進め、更なる業務負担の軽減に努める。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。 ○地域との連携・地域への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着のミッションに基づき、全4学科が地域連携教育で目に見える成果を上げている点は高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて全教職員で共通理解を図り、学校目標の達成に向けた組織的・計画的な教育活動の一層の推進に努める。 各学科の特色を活かし、地域イベントやボランティア活動へ積極的に参画することを通して、地域との連携を強化するとともに、地域社会への貢献の充実を図る。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 校長の明確なビジョンが、分掌主任を中心に校内で共有され、それぞれの教育活動において具現化されている。 4学科を持つ高校として、専門性の高い特色ある教育活動が展開されているのは、魅力ある学校づくりの一環として高く評価できる。 地域と連携した活動、地域へ貢献する活動としての「うささんマーケット」は、生徒の自己有用感、自己肯定感を高める取組としても有意義であり、可能性を感じさせる。 定員確保のために、中学生や地域に向けた広報活動、熱心で充実した進路指導による有為の人材としての卒業生の地域への送り出しは、スクールミッションの実現として高く評価できる。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の特色を活かした地域連携活動を更に充実させ、「自己有用感」及び「自尊感情」の醸成を図るとともに、自発的・自律的な行動及び他者を尊重する態度の育成を推進し、規範意識の定着を図る必要がある。 生徒支援については、定期的かつ継続的な面談による実態把握を一層充実させ、関係職員及び専門スタッフとの連携を強化しながら、課題の早期発見及び共感的な人間関係の育成に努め、安心して学べる環境の整備を推進する必要がある。 キャリア教育については、地域人材の活用や地域協働の取組を一層充実させ、体系的な進路指導の推進を通して職業観・勤労観の育成を図るとともに、主体的に進路や地域課題を考察する力の育成を強化し、地元就職率の向上につなげることが求められる。 情報発信については、生徒の活動状況の積極的な発信を継続し、本校の教育活動に対する理解の促進及び信頼の醸成を一層図る必要がある。 働き方改革については、庁内連絡及びOENシステムの活用によるペーパーレス化や採点補助システムの活用を推進し、業務の効率化を一層図る必要がある。あわせて、超過勤務時間の可視化の徹底と部活動運営の見直しにより、時間外勤務の着実な縮減につなげていくことが求められる。 			